

□■ 横浜F・マリノスの練習場を久里浜に誘致



サッカー・J1リーグの「横浜F・マリノス」の練習拠点についてマリノス、横浜市との協議をして「JR久里浜駅周辺に整備することを発表しました。2022年の使用開始を目指します。予定地は久里浜駅から近い市有地の「くりはまみんなの公園」で広さは2.2ヘクタールで、隣接する国有地も場合によっては利用することも視野に入れていきます。施設としては、1,000人規模の観客を収容できるスタンド、トレーニング施設を完備したクラブハウスやサッカー用のフルピッチ（グラウンド）が2面とハーフピッチが1面を想定しており、マリノスの選手が専用に使う施設だけでなく市民も利用できる設備も併設される見込みです。

建設等の費用については、マリノスが専用して使う施設についてはチームが負担をし、市民が利用できる部分については、横須賀市が公園施設として整備を行います。また、マリノスからは公園条例の管理許可に基づいた使用料を市に納めて頂きます。これにより、久里浜地区の地域活性や、マリノスとの交流など横須賀でスポーツをする子ども達にも良い影響が生まれることが期待されます。追浜のベイスターズ2軍の拠点や津久井浜のウィンドサーフィン世界大会など、スポーツを通して横須賀を元気にしていく取り組みには期待感を持って取り組んでいきたいと思っています。

□■ 中学校給食は2021年8月の開始を想定

旧平作小学校の跡地に建設予定の給食センターについて、運営方法や食材調達の方法などの質疑が特別委員会で行われました。人員の体制や栄養士の確保などが確認され、引き続き中学校給食の実施に向けた準備を進めていくことになりました。

まずはセンターの設計などを行う事業者を選ぶための専門知識を持った方を集めた「事業者選定委員会」が今年中に設置され、来年5月には事業者を決定。7月から今ある旧平作小学校の校舎などの解体を行って、11月から設計、建築という流れを想定しています。その後、実際に中学校給食の開始が出来るのが、これから3年後の2021年8月下旬とされています。

この給食センターでは1日最大1万食を調理出来る規模を想定して建設し、大規模災害などが起こった際にも地域への炊き出しなどに対応できる体制を整えられるよう考えています。

中学校給食は栄養面で子ども達を支え、育てるだけでなく、子育てをしている世代の負担の軽減にもなることなどからも期待されており、引き続きスピード感を持ちながら円滑な給食の提供が出来るようにしていくことが求められます。



□■ はつらつシニアパスは65歳以上を対象に費用負担は微増か

平成24年4月に廃止した福祉バス「ルシア号」に代わる施策として行われている「はつらつシニアパス」について、対象年齢を70歳以上から引き上げるとともに、自己負担額の増額が検討されていました。これはシニアパスを利用している65～69歳の利用者のうち、約半数が通勤や仕事のために利用をしているという実態があることなどが理由に挙げられておりました。しかし、70歳以上の利用者や65～69歳についても残りの半数は本来の利用目的に合致していると考えられることから、市議会として緩和措置などの検討を要望する付帯決議案を3月議会では可決しておりました。

本会議では「横須賀市内の利用に限定したパスを京急バスにご迷惑をかけ、ご協力をお願いしながら現状の価格とあまり変わらないような金額になるようにお話をすすめています。」という答弁があり、費用については見直しをして引き下げるが、年齢については「60代の多くの方については社会や地域で活躍しており、現役世代と同じとした。年金の支給年齢も上がっており支える側であると考え、はつらつシニアパスの事業を出来るだけ長く継続したい。」としています。決定までの今後の推移を見守りたいと思います。



□■ 三浦縦貫道路の延伸工事

三浦縦貫道路は横須賀市と三浦市を結ぶ幹線道路で、1期工事の区間として、衣笠から林までを結ぶ区間が平成12年3月から有料道路として開通しています。現在、この林から三浦市初声町高円坊を結ぶ1.9キロメートル区間の工事が行われています。道路の計画としては、三浦市初声町下宮田までの区間となっており、現在工事中の区間は先行整備として平成31年の開通を目標にして、歩道を備えた一般道路としての利用が計画されています。この区間の開通によって、「すかなごっそ」からソレイユの丘入口あたりまでの周辺渋滞の緩和、防災のインフラ、また三浦半島の観光促進にも期待されます。

□■ 市立の中学生の英検3級受験料を補助へ

今年度から市立の中学校に通う3年生で英検3級を受験する場合、希望する受験者全員に受験料を補助することになりました。英語が身近にある街として、中学生の英語に対する興味や取り組みが前向きになればと思っています。一方で、同じ横須賀市内に住んでいても私立の中学校に通う生徒には、この補助は適用されません。

教育長としては、「市の学校教育の一環としての取り組みで、教育委員会は市立学校を所管しているので市立中学校のみが範囲。」「私立の学校には別の補助が出ているので、その補助金の予算内で行われるべきものだと考える」との見解を示しています。

今後、市の中でもさらに議論や調整がされることになると思いますが、沢山の中学生が英語を好きになってくれる取り組みになっていくことを期待しています。